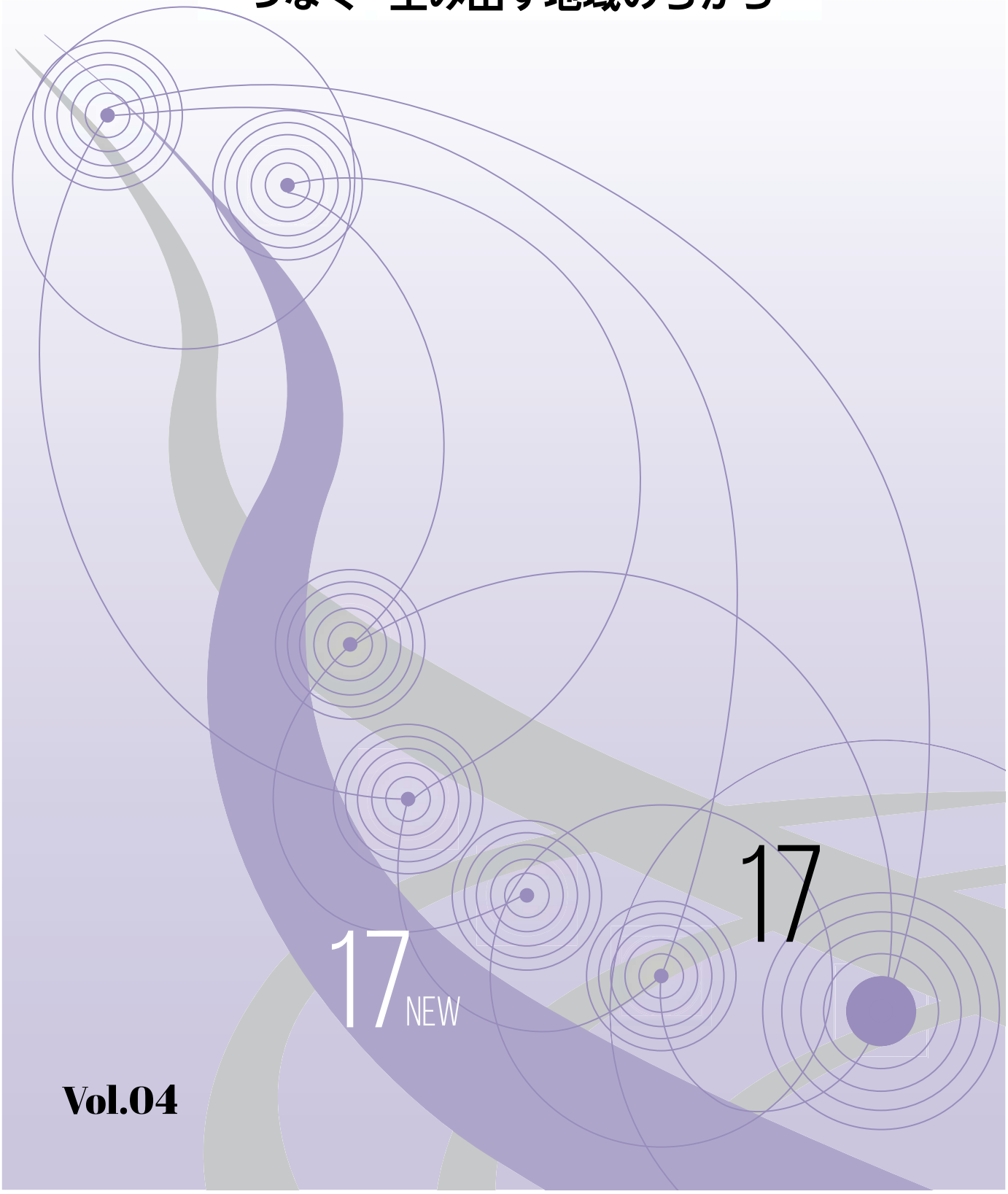
新中山道

～つなぐ・生み出す地域のちから～



Vol.04

上尾市

令和に羽ばたく！上尾のまち

古くから中山道の宿場町として栄えてきた上尾が令和の時代に注目を浴び始めている なぜ人口が増え続けるのか？ なぜ企業立地が進むのか？ どのような街を目指すのか？ 「みんなが輝くまち、上尾」の実現に向けて取り組む、上尾市長にお話しを伺った

上尾市長
畠山 稔氏

交通網の発達と人口の増加

上尾市は中山道で5番目の宿場町として古くから栄えてきた町です。明治16年には高崎線開通と同時に上尾駅が設置され、国道17号とともに都心と北関東を結ぶ交通の中継地として発展してきました。近年になっても、すぐ北の桶川市に圏央道が開通し4車線の上尾道路が接続したり、高崎線の快速が全て上尾駅に停まるようになり、上野駅を越えて東京駅や東海道線に乗り入れるようになったり、この地を取り巻く交通環境は年を追うごとに向上しています。もともと上尾市は都心から35㎞という良好な地理的条件にありながら家賃や住宅の価格が比較的求めやすい地域として知られていましたが、交通網の整備とともに、より魅力ある街として評価を受けることが多くなってきたのです。

実際、多くの自治体で人口減が大きな問題となる中、ありがたいことに上尾市では転入が転出を超過する状態が続いています。次代を担う子ども達に素晴らしい上尾を伝えていくためにも、さらなる魅力アップ、そして定住促進を図っていかねばと思います。

住みよい街にするための施策

そのためにはまず、公正公平であることはもちろん、安全安心の街にしていかなければなりません。ここ2年ほどはコロナの対応に追われておりますが、上尾市は幸い、埼玉県の中でもトップクラスのスピードでワクチン接種を進めることができました。これは導入前のシミュレーション時から多くの医療機関にご協力をいただき、行政によるワクチンの輸配送システム（上尾モデル）をしっかり構築できた成果であると考えております。

また、コロナ禍によって市内の中小企業が抱える経営課題が深刻さを増しておりますが、この状況に対応するために上尾商工会議所と連携し、「上尾中小企業サポートセンター」を開設することができました。様々な分野のスペシャリストが企業を訪問して一緒に課題解決に向けて取り組む伴走型の支援が特徴で、多くの事業

者にご利用頂いております。

さらに「あげお版ネウボラ」として平成30年4月には「子育て世代包括支援センター」を開設いたしました。これは妊娠届の受領機会などを活用して妊婦さんの不安や悩みなどを伺い、関係機関と連携を図りつつ、妊娠期から出産、子育て期に至るまで切れ目のない支援を行うための窓口で、こうした取り組みを通して今後も若い方、子育て世代の方が頑張れる街をご提供していきたいと考えております。

（仮）子ども・子育て支援複合施設［令和５年４月開設］

防災については「日本一」を目指しております。私は高校まで岩手の陸前高田で暮らしていたのですが、3・11の5日後には被災した故郷に駆けつけ苦労する現場を目の当たりにしました。現在、上尾市は全ての小中学校の体育館にエアコンを設置したり、食糧や飲料水、医療救護活動等について既に１００以上の災害協定を締結し、現在も進めていますが、それらはこの時の忘れがたい経験が元になっています。道路の不具合を市民に通報して頂き、その安全を速やかに回復することを目的とした「道路損傷通報システム」を導入したのも平時における防災の一環なのです。

上尾の高いポテンシャルを活かす

雇用の創出も大切です。令和2年にはアマゾンが上尾に輸配送の拠点を立ち上げましたが、実は今、多くの企業が上尾に関心を寄せています。アマゾンの拠点が真新しい上尾道路沿いに造られたことからも理解できますが、交通網の整備が上尾にビジネスチャンスをもたらしているのです。大型のショッピングモールも増え、競争が生まれています。

こうして大動脈が整備されると、人や物の交流が増え、企業立地が行われ、雇用が生まれます。そして人が定住し、文化が生まれます。商工業だけではありません。農業にとってもメリットがあります。大量消費地である首都圏にあるこの地から、実が熟すまで土の上で育てられた美味しい野菜や果物が交通渋滞のない道路を使い、鮮度を保ったまま届けられたらどうでしょう？ 現在上尾で多く生産されているキウイフルーツを例にとっても、それを地域の名産としてブランド化し付加価値を高めていくことも目指しています。

上尾を支える動脈は圏央道、上尾道路だけではありません。事業化が進められている新大宮上尾道路が開通すれば上尾と都心を直接結ぶ初の高速道路が生まれます。その先、北側が圏央道に繋がれば上尾と日本全国を直結する広域ネットワークが完成するのです。国や県が整備する高規格道路は緊急輸送道路としての役割も果たしますから、防災力がさらに向上することも忘れてはいけません。

上尾にはポテンシャルがあります。私の使命はこの契機を活かし「みんなでつくる　みんなが輝くまち　あげお」の実現に向け、粉骨砕身、市政運営に取り組むことです。その結果さらに魅力溢れる街に飛躍できると確信しております。

上尾商工会議所

上尾市域全体の発展と活性化を願って

半世紀以上にわたり、地域の商工業者に寄り添い、支援を続けて来た上尾商工会議所
コロナ禍によりその役割が再び注目され、多くの期待を寄せられるようになっているが
今後、上尾地域の魅力をどう創造していくのか、未来への青写真を伺った

上尾商工会議所　会頭
神田 博一氏

コロナによって再認識された活動

上尾商工会議所は県下で14番目の商工会議所として1968年に設立されました。現在の会員数は2440社ほど。全会員が所属する業種別の5部会（工業、建設業、商業、サービス業、観光・飲食業）があり、約90名の役員と議員で構成されています。

私たちは地域に密着した唯一の総合経済団体として主に中小企業の経営支援を行ったり、地域振興や行政への提言などを行ったりしています。連携事業として「上尾中小企業サポートセンター」があり、皆さまが抱える経営課題に対し様々な分野のスペシャリストを派遣したり、外部の機関と協力しつつ中小企業の課題解決に向け伴走型の支援をさせて頂いたりしております。

実はここしばらく会員数は減少傾向にあったのですが、コロナ禍によって入会数が増えています。コロナ禍によって経営計画を見直す企業がいらっしゃったり、補助金の申請書作成に際しての相談窓口になったり、企業のお悩み相談の件数も増えており、計らずも、非常事態によって商工会議所の役割が再認識され、頼られる存在としてクローズアップされている状況にあります。

上尾市にスポーツ科学拠点を！

上尾市は現在、首都圏のベッドタウンとして約23万人の人口を抱え、微増とはいえ居住者の増加に恵まれ、卸売りや小売業、飲食店やサービス業といった第三次産業の割合が多い、比較的元気な地方都市として知られています。とはいえ、上尾市以北の自治体では人口減や高齢化など社会構造上の問題から商店街がシャッター街化するなど商業的にはなかなか厳しい状況が続いています。

そんな中、上尾市やその駅前商店街はなんと

かがんばってはいるものの、路面店や個店経営の企業は大変苦労されています。巣ごもり需要や電子商取引（ＥＣ）の増加も必ずしも追い風になっておらず、ＳＮＳを使った販促やオンラインコンテンツの制作支援などきめの細かい活動に青年部出身の若い担当役員が取り組んでいます。今後は取引商談会や各種手続きのオンライン化など、さらなるデジタル化を通じて攻めの支援を行って行く予定です。

また、当所は情報誌『あぴお』を毎月13万部発行し、上尾市・桶川市・伊奈町に全戸配布しておりますが、会員であれば広告を割安で掲載できますので、域内の企業の皆さまの販促に役立てることが可能です。

しかし商工会議所は会員企業を支援することはもちろんですが、我々にとって大切なことは地域経済全体の発展であり、上尾市域全体の活性化が最終的な目標です。

例えば国鉄時代最後の請願駅として１９８８年に開業した北上尾駅の誘致に際しても上尾商工会議所は積極的に関与し、経済界が一丸となって実現に至った経緯がありました。

そして現在は２０２１年度で閉園するさいたま水上公園の跡地に新たにスポーツ科学拠点を創ることで「スポーツ宣言都市上尾」の名に相応しい街づくりを実現すべく、行政に働きかけを行っております。すぐ隣には武道館やアイスアリーナがありますし、17号を挟んで対面側には陸上競技場や上尾運動公園もあります。ここに箱ものをつくるだけでなくソフト面も充実させ、県内スポーツの一大拠点として整備することで内外から人を呼び、イベントを起こし、地域全体が潤うようにして行きたい、と考えています。

広域道路ネットワークとの相乗効果

道路整備についても私たちは同じ目線で考えています。新大宮バイパスから圏央道の桶川北本ICまでを繋ぐ上尾道路Ⅰ期区間の開通により、領家工業団地を始め周辺の住民の皆さまから、輸配送の短縮化や日々の生活移動が便利になったとの声を頂きました。ですが、さらなる効率化には残る２車線区間の４車線化が必要です。

そしてまた熊谷バイパスに至るⅡ期工事区間が繋がれば、慢性的な渋滞で多大な経済損失を招いてきた国道17号の混雑緩和が一気に進みます。これによって上尾市のみならず、桶川、北本、鴻巣、そして熊谷各市に至る沿線の皆さまの生活が劇的に変わります。道路整備に対する期待は相当に高いものがあります。

これは新大宮上尾道路の延伸についても同じことが言えます。上尾市初となる自動車専用道路が開通し北の圏央道に繋がっていけば、これまで国道17号しかなかった県央の地に太く大きな道路交通の幹が出現します。

今後、我々が期待するスポーツ科学拠点の創造と合わせ、これら広域のネットワークが効果的に作用すれば上尾市に人が集い、新たな文化が生まれ、地域経済がさらに活性化していくことでしょう。上尾道路と新大宮上尾道路の1日も早い開通を、強く願っております。

上尾商工会議所月刊情報誌「あぴお」
「あぴお」はラテン語でつなぐ、結ぶを意味

株式会社ＩＨＩ　鶴ヶ島工場

世界へ羽ばたく鶴ヶ島の航空技術

飛行機に欠かせないジェットエンジンを造り日々整備し続けるＩＨＩ新たに稼働した鶴ヶ島工場はなぜそこに建設されどう運用されているのか？その秘密に「道路」から迫る

株式会社ＩＨＩ
取締役
常務執行役員
航空・宇宙・防衛事業領域長
盛田 英夫氏

株式会社ＩＨＩ
航空・宇宙・防衛事業領域
生産センター
鶴ヶ島工場 工場長
伊豫部 亨氏

造船業から航空宇宙の分野へ

株式会社ＩＨＩは１８５３年、ペリー来航の年に幕府の命により創設された「石川島造船所」を起源とする会社です。明治維新後に民間に払い下げられ、日本で初めての民間造船所となりました。その後１９６０年に石川島重工業と播磨造船所が合併して石川島播磨重工業となり、２００７年に社名を株式会社ＩＨＩに変更しました。本社は東京都江東区豊洲。国内に６つの工場があり、国内外に２００社以上の関連会社があります。ここ２年ほどコロナの影響を受けておりますが、連結売上は概ね１兆数千億円ほどで推移しています。

現在、我々の事業は大きく４つに分けられます。まずひとつ目は原子力やプラントなどの資源・エネルギー・環境事業領域。そして橋梁や水門、トンネルやダムといった社会基盤・海洋事業領域、さらにクルマのターボチャージャーやコンプレッサーなどの回転機器、物流やパーキングなどを扱う産業システム・汎用機械事業領域、そして最後は航空エンジンやロケットシステム、防衛機器を扱う航空・宇宙・防衛事業領域です。

そしてこの航空分野を支える大切な拠点として埼玉県の鶴ヶ島市に建設していた新たな工場が２０２１年６月に稼働を始めました。

重みを増す民間航空機事業

実はＩＨＩの国内６工場のうち４つが航空部門の工場として稼働しています。例えば福島の相馬工場では航空エンジンやガスタービン、宇宙開発関連部品の製造を行っていますし、東京の瑞穂工場では航空エンジンの分解・洗浄・検査・部品修理・組立・試運転が行われています。また、広島の呉にも比較的大型の航空エンジン用部品を造っている工場があります。

ひと口に航空エンジンと申しましても自衛隊の戦闘機から民間の航空機にいたるまで様々な種類があります。実際に瑞穂工場では

民間と防衛機器両方のエンジンを扱っていますが、今後増大していく民間航空エンジンの需要に対応するために鶴ヶ島工場が建設されました。

ＩＨＩはこれまで様々な民間航空エンジンの国際共同開発事業に主要パートナーとして参画し、エンジンの設計・開発・製造からメンテナンスまでのライフサイクル全般を担当して来ました。そしてその高い整備能力により、世界21カ国の航空当局から整備認可を取得しています。実際、エンジンの整備・組立や試運転は非常に緻密でセンシティブな作業です。高度な技術と職人的な人力が組み合わされなければ成り立ちません。世界にはエンジンの試運転が可能な施設が13箇所ありますが、我々は小規模ながらアメリカ、ロシアに肩を並べられるだけの設備と技術力があると自負しているのです。

鶴ヶ島工場の地理的な意義

新しい鶴ヶ島工場の立地は非常に戦略的なものです。まず何よりも旅客機のエンジンが搬入されてくる成田・羽田両空港から距離的・時間的に近いことが重要です。エンジンを輸送する際はサイズ等の関係から特車申請が必要となり、エアサスのついたトレーラーに先導車を付けて慎重に運用するのですが、利用する道路そのものも高速かつ安全に走行できる高規格道路であることが求められます。国内でも多くのエアラインが集まる成田からでしたらほぼ圏央道1本で安全かつ迅速な運用が可能で、同業他社の中でも我々だけが得られている明確なアドバンテージとも言えるのです。

また、福島や広島からの部品調達でも東北自動車道や常磐自動車道、東名高速道路が圏央道へ接続していることによりスムーズな運用が可能です。特に部品に関しては製造コスト的にも資金繰り的にもジャストインタイム方式のメリットが高く、我々は圏央道の利便性や効率性を存分に活用しながら相馬から首都圏へ1日1便の輸送を行っているのです。

広がり行く周辺道路がもたらす可能性

また民間の専門工場ともなりますと、各国の航空局やエアラインの方など海外からのお客さまも多くなります。その方々を空港からクルマですぐにお連れできたり、福島へ向かう新幹線に大宮駅からすぐご案内できたり、道路交通網を活かしたおもてなしが可能です。そんなこともあって桶川北本ICから南下する上尾道路や首都高速から続く新大宮上尾道路の整備にも大いに関心を持っているところです。そしてこれら我々の事業の根幹を支えている従業員は、現在のところ瑞穂工場からの移管組が大半ですが、将来的にはこういった道路交通網を生かし、近隣の地域から優秀な若者達を未来のエンジニアとして募集していきたいと考えております。

空飛ぶ飛行機の最新鋭エンジンといえども、それを支えているのは地上の人間であり技術であり、工場としての地域経済に他なりません。そしてこれらの点を線として繋げる道路や物流との有機的な連携があるからこそ、安全・安心で遅滞のない運用ができるのです。我々は今後とも環境性能に優れる航空エンジンの製造や整備を通じて世界中の航空運輸を支えて行く目標を掲げており、その足元で日々整備されて行く道路に、大きな期待を寄せております。

IHI 鶴ヶ島工場

ヤマト運輸株式会社　リテール事業本部 埼玉主管支店

地域に根ざした物流拠点を目指して

全国津々浦々に広がる宅急便ネットワークで物流を支えているヤマト運輸 今回は埼玉主管支店に伺い、変わり行くサービスの形や地域に根ざした企業活動・道路との関わり方を伺った

ヤマト運輸株式会社
執行役員
北関東地域担当
久保 俊治氏

リテール事業本部
埼玉主管支店
主管支店長
堀 広伸氏

リテール事業本部
埼玉主管支店
営業担当マネージャー
松本 尚寛氏

豊かな社会の実現に貢献する

ヤマトグループは1919年、日本全国でわずか204台しかなかったトラックのうち4台を保有する運送会社としてスタートしました。日本で始めて路線事業を開始し、1976年には「宅急便」を発売、1997年には宅急便の全国ネットワークが完成しました。現在は国内シェア43％を超え、2020年度1年間には過去最多となる約21億個の宅急便を取り扱いました。また在庫管理から配達・返品まで一気通貫したロジスティック業務も行いながら、お客さまのサプライチェーン全体を最適化する総合的なソリューションをご提供しています。

私たちが目指しているのは、経営理念に掲げる社会的インフラとしての宅急便ネットワークの高度化、より便利で快適な生活関連サービスの創造、革新的な物流システムの開発を通じて「豊かな社会の実現に貢献する」です。ヤマトグループ約22万人の社員が日々、様々な業務に携わっています。

埼玉主管支店は管轄地域の荷物を全国に発送したり、全国から送られてくる荷物を配達する役割を担う拠点です。さいたま市や上尾市、蓮田市、伊奈町、白岡市、宮代町、杉戸町、幸手市などを管轄し、傘下に2つのベース店と54の営業所があります。こうしたこともふまえ、今回はこれら小口輸送業務の観点から、地域や道路との関わりについてお話しさせていただきます。

トラック走行シーン

深まる地域との関わり

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、お客さまの生活様式が変わり、消費活動も大

きく変化しました。特にEC市場の拡大が顕著で、それに関わる荷物も大幅に増えました。当社は、2020年6月にEC事業者向け新配送商品「EAZY」の提供を開始しました。これは非対面受け取りのニーズにお応えして、対面だけでなく、ご自宅敷地内の玄関ドア前やガスメーターボックス、車庫など、お客さまのご都合に合わせて受け取り方法を指定できるサービスです。また、受け取り方法はお荷物が届く直前まで変更ができます。

また、全国6300箇所に設置されたオープン型宅配便ロッカー「PUDOステーション」とも連携しています。その他、特定のECサイトで購入した商品をスーパーやドラッグストアで受け取れるようにしたり、伝票作成や集荷、返品等をウェブ上で行うデジタルサービスも順次拡大しています。

地域に根ざした活動としては、お子さまを対象に交通安全の知識をお伝えしていく「こども交通安全教室（累計約3万回）」や本物のいい音楽を年齢や地域を越えてすべての人にお届けする「音楽宅急便（累計343回）」などを行っています。さらに自治体などと協力して少子高齢化が進む過疎地域で高齢者の見守り支援を行ったり、高齢者や子育て世代の買い物支援や家事サポートなど、様々な取り組みを行っています。今後も地域の特性に応じて当社が貢献できることを考え、ご提案していきたいと考えています。

現在の課題と道路への期待

当社は日々の集配業務を4つの時間帯で分けて考えていますが、①深夜から早朝にかけての幹線輸送では高速道路の渋滞対策、②早朝の時間帯では営業所近隣への騒音対策、③その後一斉に始まる配達業務では通勤ラッシュの渋滞対策、④日中から夜にかけて行われる集配業務では交通安全への配慮や厳正な運行管理が求められます。特に埼玉県は人口が多く交通量も多いため、主要道路やその近隣道路の交通渋滞が大きな課題になっています。

当社は日頃からお荷物を受け取るお客さまの視点を大切に、お荷物をお預かりする時から情報をデジタル化し、最新の道路情報と合わせて配達ルートを最適化するシステムを開発し、効率的な集配を行っていますが、今ある交通渋滞が僅かずつでも解消されると、「送る」「受け取る」お客さま双方にとってよりよいサービスを提供することができます。また、渋滞緩和によって生まれる時間を活用して、先述した地域活動の充実を図りたいと考えています。

現在、特に注目しているのは首都高速から延伸される新大宮上尾道路の整備です。これにより与野近辺の渋滞が緩和されるだけでなく、周辺地域へのアクセスが向上することによって物流施設や商業施設の開発などが進めば事業者さまや住民の皆さまも増え、地域全体の活性化が期待できます。

また、これまで整備されてきた上尾道路や圏央道等によって幹線輸送に要する時間は劇的に短縮されてきました。その好循環が生活環状道路を担う国道16号に及んで行けばさらに効果が高くなると思います。物流のみならず、事業者さまの通勤時間の短縮や通勤圏の拡大にも繋がり、地域全体の物流や人流、ひいては経済の活性化へ繋がって行くものと期待しています。

トラック積み込みシーン

株式会社ハイデイ日高

道路整備と経済活動は一心同体

大宮駅近くの小さな店からスタートし、いち早く取り組んだチェーン展開によって首都圏を中心に450店舗を構える一部上場企業に成長したハイデイ日高 成長の原動力となった戦略と決断、そして今後のキーとなる道路との関係に迫る

株式会社ハイデイ日高
代表取締役会長 兼
執行役員会長
神田 正氏

取締役 兼 常務執行役員
経営企画部長
島 需一氏

日頃の観察が起業のヒント

ハイデイ日高の創業は1973年、大宮駅の近くに5坪の店を借り、ラーメン屋「来来軒」として店を構えたのが始まりです。当時、駅から降りてくる会社員を観察していると10人のうち4、5人はお弁当を持参していましたが時と共に少なくなり、屋台もいずれ廃れていくことは分かってきました。ならばあちらこちらの駅前にサラリーマンの受け皿になるお店を出せば事業化できるに違いない！そう考えて必死にチェーン展開を続けたところ、これが当たりました。

1993年には都内に進出し繁華街を中心に出店を加速。2002年には「日高屋」の展開を始めました。2006年には東証一部に上場、その後も店舗を増やし続け2018年には売上高400億円を達成しました。現在は約450店舗ですが、行田のセントラルキッチンには600店舗に食材を供給できる能力があり、今後も継続的に店を増やして行く計画です。

次の一手はコロナ禍の混乱から

コロナ禍では営業時間の短縮や酒類の提供禁止、客足の低下に加え、売上減によって固定費の割合が増え、2年連続の営業赤字に苦しみました。それでも借入金に頼ることなく事業を続けられたのはファンの皆さまと優秀な社員のおかげと今も感謝しています。

そしてこの間も出店を継続していましたが、次の方向性としてヒントを与えてくれたのが他ならぬコロナとの戦いでした。既に首都圏の多くの駅前に出店していた我々は関西圏への進出も視野に入れていたのですが、それには多くの資金と労力が必要になります。

そこで「変化球」として始めたのがロードサイドへの進出でした。駅前ありきだった創業以来の方針を転換したわけです。

これが新たな顧客層を生み、想像以上の自信を我々にもたらしました。コロナ対策で始めたテイクアウト商品もロードサイド店のほうが多く販売されましたし、ご近所の方が徒歩でご来店され酒類を注文されることで収益率の低下も抑えられたのです。

深化する道路との関係性

我々にとって道路はこれまでも食材を運ぶインフラとして重要な存在でした。行田のセントラルキッチンからは関東一円の店に向け、毎日休むことなく新鮮な食材が配送されているからです。特に野菜の鮮度は大切で、カットしたものをその日のうちに届けなければなりません。麺や餃子、肉類も必要な量を必要な時に届けることで在庫をなくし、製造時のCO2や食品ロスも防いでいますから、経営効率だけでなく環境対策としても道路の果たす役割はとても大きいのです。

今後、周辺道路の整備が進み、国道17号や16号の渋滞が解消されて行けば、運転手の拘束時間や輸送コストが安くなり、その利益をお客さまに還元することもできるようになるでしょう。

そしてさらに今回、道路が出店機会を増やしてくれる存在であることに気付かされたのですから、当社事業との関係性が今まで以上に濃密になっていくことは間違いありません。

飛躍する上尾道路と行田工場

私は常々、ハイデイ日高はお客さまに美味しい料理をご提供してハッピーな1日を、つまり「ハイな1デイ」を過ごしていくことをモットーに活動したい、と申しあげておりますが、同時に、働く社員の幸せを第一とする会社でありたい、と考えております。2006年から焼鳥専門の店舗を展開させて頂いたのも実は、中華鍋を持つのがちょっと難しくなった高年齢の社員が無理なく務められる職場環境を用意することが目的でした。

そして次なる一手はロードサイドへの展開と、増加傾向にある閉店レストラン物件の活用です。我々より大きな建家を必要としていた彼らの建家を半分にして異業種のテナントと分け合い、そこに日高屋の出店機会を無理なく与えていくプランを実行に移します。そしてまた、コロナで元気がなくなった繁華街にもライバルに先駆けてテコ入れし、勝負をかけるべく動き出しています。我々の挑戦はアイディアが続く限り永遠に続くのです。

今後、上尾道路の北側が鴻巣の箕田と繋がれば、その先の熊谷バイパス沿いにある当社の行田工場の利便性はさらに向上します。それは600店舗の達成を目指す当社にとって強力な武器となることは間違いありません。そしてまた他の利用者、事業者の皆さまに計り知れない恩恵をもたらすことは疑う余地もないでしょう。

道路の整備と経済は一心同体です。地域の道路整備に携わる皆さまのご活躍と1日も早い開通を社員一同、心待ちにしています。

タンメン、半チャーハン、餃子

大宮国道事務所メッセージ

地域と共に創る道路
上尾道路・新大宮上尾道路（新中山道）

―地域の発展を目指して―

大宮国道事務所長
阿部（あべ） 俊彦（としひこ）

埼玉県内の南北軸強化のために

令和3年4月に大宮国道事務所長に就任しました。

埼玉県は東日本の玄関口という特色があり、交通・物流の拠点として重要な地域です。道路ネットワークの整備、維持管理の業務を通じて、地域における魅力の向上や暮らしの充実、安心・安全の実現に努めて参ります。

大宮国道事務所では、国道4号、16号、17号の整備、管理を担当しています。

埼玉県は、歴史的に日光街道や中山道など江戸を起点とする放射状の街道が発達し、これらが現在の国道4号、17号へとつながっています。

高速道路については、県内南北方向に、東北自動車道、関越自動車道などの放射状道路が整備されてきました。

一方、県内の東西方向を結ぶ環状道路は、長年国道16号が中心でしたが、東京外かく環状道

上尾道路（II期）JR高崎線跨線橋イメージ

新大宮上尾道路　高架橋イメージ

路（外かん道）や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が概成し、県内の骨格幹線道路網が形成されてきました。

国土交通省としては、埼玉県内の南北軸強化のために、高速道路を補完する道路ネットワークとして、高規格道路を含む国道4号および17号を充実させたい所存です。

現在事業中の、新大宮上尾道路及び上尾道路（新中山道）については、地域の道路交通環境の改善をはじめ、新型コロナウイルス禍で高まる物流需要への対応、頻発する自然災害時の緊急避難・緊急支援など様々な効果が期待されております。

大宮国道事務所としては、沿線自治体、地元経済界及び地域の皆様と共に、地域の経済発展と安心・安全に寄与する道路ネットワークの構築を目指して、事業を推進して参ります。

地域の皆様と共に

本冊子は、平成31年3月に創刊され、今回で第4号の発刊となります。

今後も、地域の皆様との連係を図り、一緒に地域の活性化を考えながら事業を進めていきたいと考えております。

本冊子では、事業の進捗などをお知らせさせて頂きながら、地域の皆様とのコミュニケーションツールとしてお役に立てればと考えております。

また、地域の方々の道路事業に関心を持って頂く一助になれば幸いです。どうぞよろしくお願いします。

Message

事業進捗紹介①上尾道路

国道17号の渋滞を緩和し、豊かな暮らしをサポート

上尾道路は、国道16号及び国道17号新大宮バイパスの宮前IC（さいたま市西区宮前町）から、国道17号の西側を並行し、鴻巣市箕田で国道17号及び熊谷バイパスに接続する延長20・1㎞のバイパスです。

バイパスとバイパスをつなぎ、地域の道路網を形成するとともに、国道17号の交通混雑の緩和や沿道環境の改善が期待されます。現在供用区間の終点部にあたる桶川北本ICでは、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と接続しています。

JR高崎線交差部で橋梁下部工事を進めています

上尾道路（Ⅱ期区間）とJR高崎線交差部は線路を越える橋梁となるため、線路の北側において令和2年3月から橋梁を支える柱の工事に着手し、令和3年度は線路の南側において工事を行いました。

上尾道路（Ⅱ期区間）の設計説明会を開催しました

令和3年6月に、鴻巣北本市境～主要地方道東松山鴻巣線の地権者の皆様を対象に、道路設計の考え方や用地取得の流れについて説明を行いました。

感染症対策として、一堂に会しての説明会に代り、事前予約制による少人数の参加とし、一方通行（ウォークスルー）方式のオープンハウス型の説明会として参加者同士の「密」を防止して実施しました。

説明会で使用した設計図面は大宮国道事務所及び鴻巣市役所で閲覧できますので、ご希望の方は左記問合せ先までご連絡ください。

●問合せ先　大宮国道事務所
048-669-1200(代)
鴻巣市都市建設部道路課
大規模道路推進担当
048-541-1321(代)

上尾道路設計図面（1/1,000）の説明状況
（田間宮生涯学習センター（鴻巣市））

JR 高崎線交差部の橋梁下部工事の状況
（令和３年12月撮影）

上尾道路Ⅱ期区間（鴻巣市箕田地区から国道１７号熊谷バイパス方面）を望む

上尾道路の情報は、こちらでもご覧いただけます。
大宮国道事務所ホームページ
https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/oomiya_index012.html

事業進捗紹介②新大宮上尾道路

圏央道沿線から都心へのアクセス性が向上し、地域の産業活動を支援

新大宮上尾道路は、国道17号の慢性的な交通渋滞の緩和や埼玉県中央地域の健全な発展などを目的とする、さいたま市中央区から鴻巣市に至る延長25・1㎞の高架構造の自動車専用道路です。

平成28年度に、さいたま市中央区円阿弥から上尾市堤崎（与野～上尾南間）の延長約8・0㎞が事業化され、平成29年度から、国土交通省関東地方整備局と首都高速道路株式会社の共同で事業を進めており、令和2年3月に都市計画事業の承認及び認可が告示されました。

入口　出口

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため延期になっていた設計用地説明会を令和2年7月から8月にかけて開催しました。

感染症防止対策として、従来の一堂に会した説明会形式とせず、オープンハウス形式とし、参加される方は事前予約制とした上で、時間を分けて来場していただく形にて実施しました。

この説明会を踏まえて、令和2年8月に公共の敷地（道路等）に用地幅杭を設置しています。

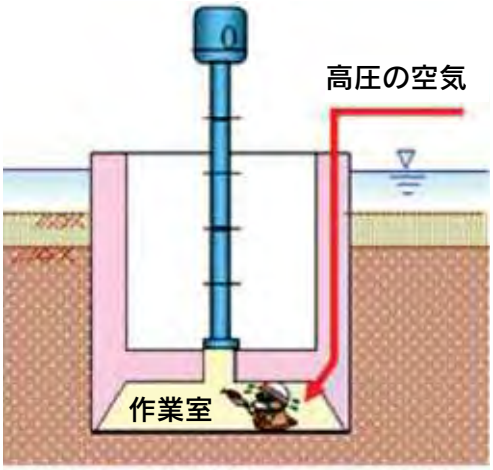
現在は、調査設計、用地買収、環境整備を実施しています。

宮前インターチェンジ付近の橋梁基礎工事に着手しました

新大宮上尾道路（与野～上尾南）事業で初めての工事となる、宮前インターチェンジ付近における橋梁基礎工事が令和3年11月に契約となりました。

今回実施する工事は、橋梁を支えるためのコンクリート製の直径約6ｍの杭を、地下およそ50ｍの深さまで施工するものです。基礎の構築には、ニューマチックケーソン（左頁参照）と呼ばれる工法を用います。

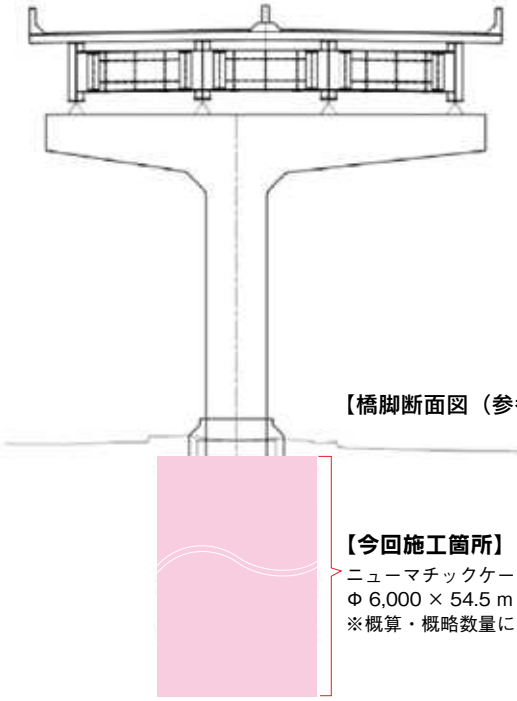
宮前インターチェンジ付近



出典：日本圧気技術協会 HP

ニューマチックケーソン工法

(Pneumatic caisson method) の「Pneumatic」は「空気の」と言う意味で、「caisson」は「函（はこ）」を意味します。函（躯体（くたい））の最下部に作業室と称する密閉された部屋に高圧の空気を送り、地下水の侵入を防ぎ地上と同じような状態で掘削を行い函（躯体）を沈設する工法です。



新大宮上尾道路の情報は、こちらでもご覧いただけます。
大宮国道事務所ホームページ
https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/oomiya_index020.html

つながり、結ぶ

TOPICS

本庄市
国道17号本庄道路・新中山道の整備に寄せて

本庄市は、埼玉県の北部に位置し、北に流れる利根川により、豊かな水と肥沃な大地に恵まれた関東有数の野菜の産地です。

かつては、中山道最大規模の宿場町本庄宿として栄え、明治期からは近代化と共に養蚕と絹のまちとして発展した歴史があり、中山道沿線には蔵や商家、寺院など、歴史や文化を今に残す建物が点在しています。

中山道は、中世から近世の本市の歴史を紡ぐ幹線道路であり、今なお、本庄駅北口地域における東西の幹線道路として、地域住民の生活を支えています。

一方で、市内には関越自動車道や国道17号、国道254号、国道462号といった幹線道路が縦横に走り、首都圏と上信越方面を結ぶ交通網が、地元経済や観光振興に大きな役割を果たしています。

特に、国道17号は首都圏から上信越方面を結ぶ広域幹線道路としての機能を持つとともに、災害時等の第1次特定緊急輸送道路としても重要な役割を担う道路ですが、深谷市岡地内から上里町勅使河原地内の区間は、埼玉県内でバイパスを有しない唯一の2車線区間のため著しい交通渋滞が発生しています。

現在、国により本市沼和田地内を起点とする国道17号本庄道路Ⅰ期区間の整備が着々と進められておりますが、国道17号本庄道路は、広域幹線道路としての重要性に加え、沿線市町の交通渋滞の緩和、交通事故の発生防止、災害時の緊急輸送路の確保等、地域の経済的自立と活性化を推進するとともに、平常時、災害時を問わない安定的な輸送を確保するための物流上重要な道路であり、深谷バイパスや関越自動車道などの高速ネットワークと一体となることで、沿線地域への企業進出や生産性の向上、物流の効率化などのストック効果にも期待が高まっています。

また、超高齢社会に突入した現在、持続可能な地域社会の実現のためにも、身近な生活基盤施設である道路を活かすために、国道17号本庄道路の計画的な整備を進める必要があります。

今後、国道17号本庄道路と新中山道が整備されることで埼玉県の南北が強固に結びつき、相乗効果が生まれることに大きく期待しています。

本庄市沼和田付近の航空写真 本庄道路Ⅰ期区間

つながり、結ぶ

TOPICS

深谷市
渋沢栄一翁の精神を受け継ぐまちづくり
～旧・新中山道とともに～

深谷市は、埼玉県の北西部、東京都心から70㎞圏に位置し、北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形です。利根川と荒川の2つの河川は、肥沃な大地の形成に寄与しており、それらがもたらす農作物として、深谷ねぎやブロッコリー等は全国に知られるブランドとなっております。

交通の面では、国道17号・同深谷バイパス・上武国道、国道１４０号・同バイパス、国道２５４号などの主要道路が通っており、地域の玄関口として関越自動車道花園インターチェンジが設置されています。また、深谷市岡から群馬県までを結ぶ本庄道路が事業中であり、この本庄道路や上尾道路の整備により、深谷バイパスと一体となって県北・県央地域の幹線ネットワークが形成されることとなり、新中山道は本市にとって重要な路線となっています。

一方、郷土の偉人である渋沢栄一翁が肖像となる新紙幣の発行が令和６年と発表され、さらに、栄一翁が主人公のＮＨＫの大河ドラマ「青天を衝け」が令和３年に放送されるなど、全国的に本市への関心が高まっております。

このようななか、栄一翁が尽力した日本で最初の機械式レンガ工場が本市に設立された経緯もあることから、レンガのまちづくりを進めており、令和２年７月にはレンガを基調としたデザインの新庁舎が完成しました。また、新庁舎とＪＲ高崎線深谷駅を結ぶ、市民の投票で愛称が決定した「市役所通り」が令和３年12月22日に開通しました。道路については、「市役所通り」も「中山道」との交差点など、一部をレンガ調で整備しています。なお、「市役所通り」と並行する、愛称「レンガ通り」の一部はレンガを敷き詰めた整備を行いました。

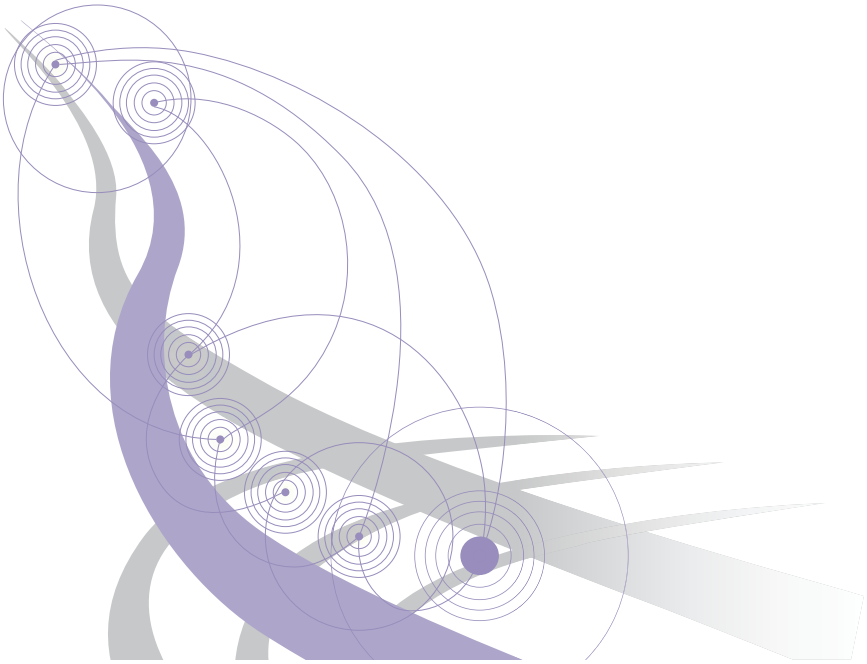
栄一翁の精神を受け継ぐとともに、このブームを一過性で終わることのないよう、積極的かつ継続的に、来訪者が楽しめるまちづくりに取り組んでまいります。古き時代を魅力的に残しつつ、新しい時代の中山道が整備されることで、人と地域がより一層繋がり、新たな価値や未来が創出される事を期待しています。

市役所通り開通式

レンガ通り

【位置図】

2022 年 3 月発行



“つながり” が生み出す地域のちから

――― 人、地域には元々持つ、備わっている力がある。それらがつながり面となって広がることでポテンシャルはさらに高まり、未来に向けて新たなちからとなる。

道がつながる、地域と地域がつながる、人がつながる、そしてそれ等が持つちからがつながり、新たな多様な価値を創出し豊かな地域、輝かしい未来を創造することが出来る。様々な分野の知恵、ノウハウ、技術、経験を連携、協働することで高いパフォーマンスが生み出される。

その可能性を示し発信する、「地域と道」が創る冊子 ―――

国土交通省 関東地方整備局
大宮国道事務所
〒 331-9649　埼玉県さいたま市北区吉野町 1 丁目 435 番
TEL.048-669-1205（計画課）
https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/